

令和2年 地域懇談会（荘内中学校区）

I 期日：令和2年11月16日（月）

会場：荘内市民センター

II 開会時刻：19時00分

閉会時刻：20時30分

III 会議内容

1. 開 会

2. 説 明 （学校教育課長 教育総務課長より）

3. 質疑応答

（参加者）40年で188億円と聞いたが、玉野市が人口が減り、新しい企業の誘致も無く、大丈夫なのか。ハードの面でアウトではないか。議員さんに聞きたい。

（赤松議員）新聞にも出ているが、基金についても報道のとおり厳しい状況。教育委員会の説明のとおり施設面の費用も確かに厳しい。義務教育学校などを検討していきたい。

他のものも精査して、財源を確保したい。各委員会でシビアに財政を見ている。今あるのは人口8万人の頃の施設だが、現在は6万人規模。儉約していく必要がある。

（参加者）統廃合して施設管理費や人員をカットしていくということなのか。

お金をかけずにできるとは思わないが

（赤松議員）今日は教育委員会からの教育の面の説明であった。全部の学校では188億円必要だが、義務教育学校だと、予算が削減できる面もある。今日はどうだったの話。何ともできないとは言えないが、大変厳しい状況である。

（参加者）発達障害が多いと聞いたが、その理由は？

（学校教育課長）H20から、特別支援教育を重点課題として取り組んできた。県内でも先進的な取組である。福祉との協働もしている。障害かどうか判断が必要であり、支援が必要かどうかの判断も必要。発達障害の人数が増えたから問題という話ではない。

（学校教育課長）荘内中学校区が唯一の1小1中。小中連携を他地区以上に取り組んでいる。学区が広い分、地域との連携が難しいとも聞いている。地域人材の発掘や、把握が課題

- (参加者) 今の説明にあったことをしてくれる、地域の人材が確かに不足している。お茶の先生やお花の先生もいない。
- (参加者) 地域の支援ボランティアに、私も関わってきた。80歳になるまで、お役に立つことができてうれしい。小学校の手芸に参加したが、自分で一生懸命しようとしている。先生が若くて、教科書通りに説明するため、私の方法とギャップがある。コロナで子どもたちに接することが無くなって、久しぶりに接することができて、若返った。家でも達成感をもって過ごすことができた。
- (学校教育課長) 自分の元気になっているという声も聞く。逆に後継者不足も聞く。定年が延長された後に、地域人材を活用していくのは、現在の方法では難しい。
- (有元議員) 荘内地域で住宅地が増えている。核家族化で、若い家庭も増える。待機児童も出ている。幼稚園や保育園の在り方、保育の在り方について、ご意見が聞きたい。荘内南保育園の廃止の話もあったが、園児数の増加でそのままになっている。
- (参加者) 待機児童はあるか。
- (就学前教育課長) 現状としては年度当初8人 10月1日現在で28人
- (有元議員) 保育士さんの確保は大事。仮に荘内南幼稚園をそのまま置いておいて、認定こども園を併設すれば、受け皿になる可能性がある。予算が無いと嘆くのではなく、ここで対策することが大切。ご意見を伺いたい。
- (参加者) 孫を玉原の認定こども園に預けたが、母の働き方が変わっても、転園することなく同じ施設で預かってもらえた。不規則な仕事だったため大変助かった。荘内も2つの幼稚園をもつのではなく、一つをこども園にしてもらえたらありがたい。
- 中学校のだっぴに参加してすごくよかった。今年度もしていただきたいが、コロナの影響でなくなって残念。一般の人が学校の企画を知らない。まだまだPRが足りないのでは。
- (参加者) 認定こども園は時代の流れ、待機児童が出て、働く保護者の要望も強いので、すぐにでも現実にしてほしい。子ども応援団をしている。小学校の草が多かったが、応援団でずいぶんきれいになった。メンバーが高齢であることが課題。中学校の斜面の草刈りは大変。ボランティアが出た方がよいと感じた。校歌の中に、地域の思いが詰まっている。先生方は子どもたちにしっかり教えてほしい。
- (参加者) 20年以上見守り隊をしているが、ランドセルや水筒が重たそう。「学校に行きたくない」と伝えてくる。それでも送り出している。「行ったら楽しいが、学校までの距離が長いから行きたくない。」と聞く。「学校が楽しい」と思えるようにしてほしい。そのための支援をしていく。

4. 閉 会